

正誤表

常微分方程式の数値解法 II, 2008

2019年9月現在

- p.608 19行
“Martin Gander” → “Martin **Hairer**”
- p.471 8行 ‘ゴラブ (Golub) – ヴァンローン (Van Loan) (1989), 7.7節を見よ’ に次の訳注を追加。
[訳注] 日本語で読める文献として, F. シャトラン (Chatelin), 伊理正夫・伊理由美訳, 行列の固有値, 丸善出版, 2003 の 5.7 節 QZ 法を薦める。
- p.478 図 2.3 における図中に書き込まれた解説において
右上図で ‘上への射影付き $H = Const$ ’ → ‘**多様体 $H = Const$ 上への射影あり**’,
右下図で ‘上への射影付き $H = Const$ ’ → ‘**多様体 $H = Const$ 上への射影あり**’

以下は, 原著者 E. Hairer の Web page

<http://www.unige.ch/~hairer/corrections/sode-II-2nd.pdf>

に掲載されていて, 本訳書でも訂正が必要な事項である。

- p.101 表 6.4 ‘式 (6.14) の P を用いた $R(z)$ (次数 $p \geq s - 1$) の L 安定性’ の中で, $s = 8$ の場合の L 安定性を満たす γ の条件
 $0.15665860 \leq \gamma \leq 0.23437316$
→
 **$0.156658599397043948392450644421 \leq \gamma \leq 0.202934860843377673777934934808$ と
 $0.205194171949400711746061386010 \leq \gamma \leq 0.234373159605583557947558905263$**
同じ表で, $s = 8$ の場合の L -安定 $p = s$ の数値
 $\gamma = 0.23437316$ → ‘**左欄の γ の属する区間のうちの, 最右端値**’

- p.121 中ほどの式

$$\begin{pmatrix} z_1 \\ \vdots \\ z_s \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} hf(x_0 + c_1 h, y_0 + z_1) \\ \vdots \\ hf(x_0 + c_s h, y_0 + z_s) \end{pmatrix}$$

→

$$\begin{pmatrix} z_1 \\ \vdots \\ z_s \end{pmatrix} = A \otimes I \begin{pmatrix} hf(x_0 + c_1 h, y_0 + z_1) \\ \vdots \\ hf(x_0 + c_s h, y_0 + z_s) \end{pmatrix}$$

- p.462 下から 2 行

‘この関係式を (1.10a) に代入すると’

→

‘この関係式を (1.14a) に代入すると’

- p.470 演習問題 2

‘さらに, A_{22} および B_{11} の対角成分はすべて 1 であり, B_{22} の対角成分はすべて零であることを示せ’

→

‘さらに, A_{22} および B_{11} は可逆であり, B_{22} の対角成分はすべて零であることを示せ’

- p.470 演習問題 2 のヒント

‘このとき, $Bv_1 \neq 0$ で,

$$AZ_1 = Q_1 \begin{pmatrix} -\lambda_1 & * \\ 0 & \tilde{A} \end{pmatrix}, \quad BZ_1 = Q_1 \begin{pmatrix} 1 & * \\ 0 & \tilde{B} \end{pmatrix}$$

‘であることを証明せよ. ただし, ここで Q_1, Z_1 はユニタリ行列で, その第 1 列はそれぞれ Bv_1 および v_1 である’

→

‘このとき, $Bv_1 \neq 0$ で,

$$AZ_1 = Q_1 \begin{pmatrix} -\lambda_1 \beta & * \\ 0 & \tilde{A} \end{pmatrix}, \quad BZ_1 = Q_1 \begin{pmatrix} \beta & * \\ 0 & \tilde{B} \end{pmatrix}$$

‘であることを証明せよ. ただし, ここで $\beta = \|Bv_1\|/\|v_1\|$, Q_1, Z_1 はユニタリ行列で, その第 1 列はそれぞれ Bv_1 および v_1 のスカラー倍である’

- p.474 下から 9 行

$$g = g(q), \quad \dot{g} = G(q)u, \quad \ddot{g} = g_{qq}(q)(u, u) + G(q)(f(q, u) - G^T(q)\lambda)$$

→

$$g = g(q), \quad \dot{g} = G(q)u, \quad \ddot{g} = g_{qq}(q)(u, u) + G(q)M(q)^{-1}(f(q, u) - G^T(q)\lambda)$$

- p.475 式 (2.9)

$$\begin{pmatrix} I & f_z(\tilde{y}_n, \tilde{z}_n) \\ g_y(\tilde{y}_n) & 0 \end{pmatrix} \rightarrow \begin{pmatrix} I & -f_z(\tilde{y}_n, \tilde{z}_n) \\ g_y(\tilde{y}_n) & 0 \end{pmatrix}$$

- p.543 15 行

‘3通りの定式化すべてについての結果は図 7.3 の下の左の図に示されている’

→

‘3通りの定式化すべてについての結果は図 7.4 の下の左の図に示されている’

- p.574 サブルーチン RADAU5 の comment 文部分, 下から 29 行

C FOR I=1,MLJAC+MUJAC+1 AND J=1,M2 AND K=0,MM.

→

C FOR 1<=I-J+MUJAC+1<=MLJAC+MUJAC+1 AND J=1,M2 AND K=0,MM